



充実の雪山縦走

上信会越 谷川 白毛門～朝日岳～シシゴヤの頭

國田

【日時】 2010年4月24日(土)～25(日)

【メンバー】L 栗原、金沢、國田

前夜出発、朝土合駅に車を駐車し、土合橋の登山口より入る。暫くは、雪も無く急な登山道をひたすら登る。途中から雪も付いてきてスリップしやすい為、アイゼンを装着。所々岩稜で雪とのミックスだが、前週の岩トレでアイゼン訓練をしてもらっていた為、それほど怖さも感じずに歩くことが出来た。但し、私のスピードは遅く、前を行く2人をその都度待たせながらの歩みとなる。1日目の天気はあまり良くないという予報で覚悟はしていたが、始終曇っており時折吹く風も強く、4月でも完全に‘冬山’の様相を呈している。左手に平行して走る谷川岳の稜線を見ると、帯状のガスがかかって鬱そうとしており、‘魔の山 谷川岳’といった雰囲気満載。それでも我々は順調に白毛門を越え、笠ヶ岳の避難小屋に辿りついた。

シェルターのようなドーム型の避難小屋の中は、外の風も感じさせず‘天国’のようで、ちょうど3人が並んで寝られる広さもあり、「ここで泊まりたい。」という誘惑にかられてしまう。まだ時間も早く、明日の行程を考えるともう少し進んでおく必要がある。金沢さんが「お湯を沸かして飲みたい。」と言い、私も温かいミルクティーのお相伴にあずかり、食べ物もしっかり摂ることが出来た。実はこの時、「ここでこんなにゆっくりしていていいのかな。」と感じたのだが、結果的にはこの時の休息とエネルギー補給のお陰で、この後の長い行程を歩くことが出来たと思う。

ここからまずは、朝日岳を目指す。リーダー栗原さんは、朝日岳まで行ってあまり風が強いようなら、その先まで行くとのこと。着いてみると、案の定の強風地帯である。栗原さんとの相談により、距離はあるものここからの行程は殆ど下りなので、このまま清水峠を目指し、出来れば避難小屋に泊まる、ということになる。相変わらず、2人の後から付いて行くのが精一杯で疲れてはいるのだが、バテている訳ではないので、「よし、もうひと踏ん張り！」と自分を奮起させた。

西へグルっと方向を変え下って行くと、雲の間から太陽がチラリと顔を見せるようになり、相変わらず強風の中で体感温度は低いものの、太陽の明るさで気持ちも前向きになれた。所々現れる夏道を辿るように進んでいくと、赤い三角屋根の建物を遠くに確認する。「あれは避難小屋！あそこに泊まれるの？」と俄然やる気が出て、疲れも軽減したように感じた。但し、近づくにつれその手前に小さな建物が見え始め、赤い屋根の方



は何か違う建物ではないかという見解にはなった。清水峠への行程はトラバース時にアイゼンがやや上滑りしヒヤっとする場面はあるものの、16時より前に小屋に到着出来た。

小屋は思ったより大きく我々のみだったので、中にテントを張ることが出来た。夕食を食べ、明日の行程について相談する。北へ十五里尾根を下るか、予定通りシシゴヤの頭から旭原に下るか。明日は天気も回復する予測により、予定通りのルートをとることにし、その後の交通機関を考慮して朝は3時起きに決め、シュラフに入る。すると、ガサゴソと物音がする。ネズミではないかとのこと。せっかく入ったシュラフから仕方なく出て、テントの外に出しておいた食料をネズミの被害に合わないようにした。

翌朝、食事を終えパッキングをしていると、傍らの栗原さんから「キャー！！」という悲鳴があがる。急いで栗原さんの手元を覗くと、スタッフバックから出てきたネズミが逃げて行くところだった。昨夜栗原さんは、スタッフバックの口を絞りテント外に出しておいたのだ。ネズミは、昨夜のうちにすでにスタッフバックに入り込んでいたらしく、スタッフバックをも食いちぎり、中の食料をそれぞれ少しずつつかじっている為、栗原さんの行動食は半分以上被害を受けてしまった。それにしても、小さいとはいえネズミの姿を見ることになるとは！

出発する頃には空も白み始め、歩き出すと昨日とは違って温かい。途中で後を振り返ると、東の稜線の向こうから太陽が出てきた。久々に雪山で日の出を拝むことが出来た。順調に七ツ小屋山に着き、蓬峠との分岐を越えると、シシゴヤの頭の北東の尾根は岩稜帯で切り立っているのを確認する。ここからシシゴヤの頭までは、所々ナイフリッジ状の所もあり、慎重に足を進める。栗原さんは軽々と通過し、金沢さんは何のことはなく突破していくが、私はこういう場面では益々バランスが悪くなり足がすくむのだった。

シシゴヤの頭からは、急な下りとなった。私が今回の山行で一番手こずった箇所だ。ヒロクボ沢側に急傾斜を左右にトラバースしながら下るのだが、滑落しそうな危険を感じ腰が引けてしまい、変な所に力が入り体を垂直に保てず、冷や汗をかきまくってしまった。ここはデブリだらけの危険地帯だ。下りきった後、夏道の橋が出ていれば北沢を渡れるが、もしも渡渉出来なければ再度尾根を越えるとのこと。消耗しきった私は、思わず「なんとか渡渉出来ますように！」と祈ってしまう。北沢に着くと、橋はどこにも見当たらないが、思ったより水量は少ない。栗原さんは良いルートを見つけ、軽々と飛び石を踏んでどこも濡らさずに渡渉して行った。バランスの悪い私は敢えて飛び石をせずに、靴の防水を信じ、川底の浅い所を確実に選んでスパッツまで濡らしながらも突破。後に続く金沢さんは、今迄の快調な足取りとは一転し、沢の途中で立ち往生している。なんとか渡渉を終えると、靴の防水も甘く大分濡れたようだ。すると「あの『沢渡り』



は死ぬかと思いました。」と発言。冬の始めに入会した金沢さんは、その後の雪山の経験では確実に技術を身につけ、今回の山行中確かな足取りだったが、沢登りの経験がない為渡渉で急にペースダウンしたらしい。「でも、今年の秋頃にはきっと私の前を軽々と渡渉していくのだろうか。」と、思わずにはいられなかった。

ここからは、10時37分の旭原のバスの時間に間に合うように、林道を急いだ。お陰で、バスの時間には余裕を持って到着し、1時間程のバスの中では爆睡した。越後湯沢の駅に着くと、電車の時間まで1時間位あったので、駅の中で食事も済ませ、余裕を持って電車で土合駅に戻ることが出来た。

昨年の秋に入会し、色々な方々に機会を与えていただき、今シーズンは私の中で一番多く雪山を歩く機会を持てた。しかし、天候不良や自分の体調不良等で、計画通りということが少なかった。最近「自分には雪山は向いていないのではないか。」と思い始めていたが、私の遅い歩行でも良いと誘ってくれた栗原さんに甘え、参加を決めた。相変わらず遅い歩きでお2人には迷惑を掛けたが、重いザックでも長く歩き続けられることは分かり、自信にはつながった。また、計画通りの行程を縦走することが出来て、満足感は大きかった。今シーズンの雪山の締めくくりとしては、非常に充実した山行となった。来シーズンは、もっと体力をつけた上で、技術の向上に努めたいと思う。



白毛門にて



清水峠(送電線監視小屋)と日の出

- 【行程】 1日目：土合（7：00）—白毛門（11：00）—笠ヶ岳避難小屋（12：00、12：30）
—朝日岳（13：45）—分岐（14：10）—清水峠白崩避難小屋（15：35）
2日目：清水峠白崩避難小屋（5：00）—七ツ小屋山（5：50）—シシゴヤノ頭
（7：20）—旭原バス停（10：10）

【地形図】 茂倉岳